

学科 FD 研修会のメモ(案)

記録担当:横木

日時:2004年3月22日 13:30~17:00

場所:都市システム工学科東棟 大学院講義室

参加者:安原,小柳,横山,沼尾,井上,山田,小峯,神子,横木,桑原,春日(線形代数非常勤),原田,村上,伊佐治

司会:山田

話題提供(1) 設計演習 II(村上+課題担当者)について

村上先生より全体説明のあと,各テーマ担当者(原田,横木,神子,井上,安原)から個別の説明があった。以下に問題提起された論点と議論の概要を示す。

全体説明(村上)

- 設計演習全体の目的が明確でない。学科カリキュラム上の位置づけが明確でない。
- JABEE WG からは、「広い視野と柔軟な思考」、「地域・文化・市民社会への素養」、「環境観」、「課題探求能力」、「自律的・継続的学習能力」を目標にして欲しいとの要請がある。
- 一方各テーマでは、「技術者としての基礎力」、「専門基礎学力」を目標としている。
- 講義科目と演習の役割分担の明確化をすべきか。
- 成績評価が統一されていない。学修到達度やテーマ毎の手法が異なる。
- 各テーマ間で内容,成績評価法に関する情報交換が全くなされていない。

テーマ毎の説明(各テーマ担当者)

- 外部講師による特別講義を実施している。また優秀設計者は表彰している。(鋼構造)
- 演習を実施する上で基礎となる授業科目が少なく,学生に基礎力が付いていない。(地震)
- 演習で必要となる内容についての講義は,カリキュラム上演習と並行して実施されているので,その部分の説明が演習と講義で2回行うことになり,一部の学生にとっては無駄な時間となる。(水工1)
- グループで作業させているので,成績評価もグループ毎に行う。(水工2)
- 3人の担当で3つの課題をストーリー性を考慮して提示し演習を行っている。(地盤)
- 演習の成果はプレゼンテーションではなく,報告書(レポート)を重視すべき。
- 基礎的な講義と演習テーマとの関係は,カリキュラム上整合しているのか。
- 演習のテーマ数はこれでいいのか。
- 成績評価に関しては,テーマ毎にデータを示すようにしたらどうか。
- 設計を行うのなら,コストを意識させるよう指導すべき。

話題提供(2) 後期授業アンケートの点検について(横山)

後期授業のアンケート・点検の実施状況について報告された。また、特にアンケート項目の中の、「満足度」「理解度」「予習復習時間」についての分析結果が報告された。以下に問題提起された論点と議論の概要を示す。

- 後期の授業点検の対象科目数は38科目で、分担分を含めて合計49科目について点検を依頼した。その結果、40科目から報告があった。結果は別途配布済み。
- 今回報告された授業点検の結果、授業の目標が達成されていないと自己評価された科目が2かもくあった。
- また、成績評価について、不合格者が20%を越える科目が7科目、70%以上がA、A+となった科目が6科目あった。
- アンケート項目の重み付き平均を計算したところ、「満足度」では3~4.5に、「理解度」では2.5~4に分布していた。
- 授業科目を必修、選択、実験にわけて分析したところ、「理解度」「予習復習時間」で、実験科目がやや高い点を示している他は特に差は表れなかった。
- 教養科目のアンケート分析結果を参考にすると、授業の満足度と授業の方法(進め方、技術)と強く関連しており、満足度と理解度、向上度に相関があることが分かる。しかし予習復習時間と満足度、理解度、向上度とは相関がない。
- 授業アンケートの活用法として、授業方法の改善のための指標として用いるのが適当ではないか。

- アンケート項目の「満足度」と「理解度」はそもそも同じことを表しているのではないか。
- アンケート項目が不適當ではないか。
- アンケート用紙の裏面を利用することで、より詳しい分析が可能である。
- 選択科目における授業の達成度の設定と成績分布について：選択科目なので受講者全員が合格レベルに達しなくても気にしなくていいのか、それとも受講者全員が合格できるような授業レベルに設定すべきか。
- 最近の学生は、週をまたいで連続する説明をしてもついてこない傾向にある。
- 授業で写真や動画を見せる場合は、パワーポイントは強力なツールである。反面、学生は講義ノートを取りづらくなるので、資料を別途配布する必要があるかもしれない。
- 設計演習と他の必修科目や3力学との関係は整合しているのか。また、演習や実験のカリキュラム上の位置付けについて学科全体で議論が必要ではないか。科目のとりまとめ担当とは別に、それを考える責任者が必要ではないか。
- 最近の学生の悪い特徴として、「指示待ち」、「数学は暗記」という認識がある。これらの傾向を矯正するために、16年度の主題別ゼミナールでは、テーマ担当者間の連携を密に取り、ねらいや成績評価を統一して実施していきたい。

その他

三村先生から出されていた Discussion paper に関して議論する時間がなかった。

以上